第1一次軍需 曾祉指定

つたのと、軍需會批法のそのもの

その痙攣を計の決敵影響がこの一言語語を願って日またい。即群に

との場所によるもりと歌される。までも、又指定されなかうた今日 ある。同様のこと氏語館の場合に知知すべき私が舞されてなうたなとしてあるのである。指定されぬ。空生語質は部にすでに変態されて知りている。

までも、又指定されなかつを今日

もいへることである。

のる。 同様のことは朝鮮の場合に て

でを整常會能法による生産

野田

部下に強かねばなられ。政府も第

即とばせ二、廿二の両日常見を上トラー施統とムツソリーニ統

の諸問題が討聴され、統帥は總常する政治上、国事上、經濟上

語図に對し石協定への参加を動

,界石油市場選占機制を打破せん

リツポ・アンフソが列席した

ルラル組織と各種の制限構度をに対五日正午までに復業を命じ、

これ立るれない場合は適當な非常

一回と第二回指定會社との間以西

およ名類無に関係する質ははする

では五百正午次の公報を巡察し

れたが、右腕談において広郷伊藤州の知己の緋神に悪いて行は

激げた、自殿は継続と新師と

【ベルリン甘五日南盟】總統大本

三回型も影響してあるといる。

政府は第二次指定に引つがき第

ってある。今回の観察の結果、

高項のあることを疑見し、自分

第二大會批指定を行うた。今回指 欧丘側のそれらの後期候代が大鷲 はこれに歩脚を含せて、此の機器 は蜒山、区斯、電系の所割動力部

七日より今日窓の一ケ月餘の間に、軍需會此法の適用を譲越し、若く

從つて第一次指定のあった一月十

正された望霧會此は四百十四社の

整つたのではないかと思される。

政府は廿五日聖器會社法による

門の命と見てを網網したといってわけである。成力増減就中航空機

くにして期待される時期に入った一部の欧革を要する部間もなほ際に担心たのは高外であったが、そ

つきできない。これが第一次指定 工業の原動力であることに説明す

然し世級との顧問の上において、

米、英石油支 配の分割提案ンは四日

原別を行さないと説明とある

蘇を明さめとは勿論、軍器を出る

されてあるでありろし、又生産資(などかに今回の第二大道をに加へ

られたのは簡単の気がといいわ

なが続しいことである。ある場合

ということは質べくくて、なか それらの間に電船的取扱ひを合わ

であり、旦づ知って公正である場

要でリア通信は廿四日米調仰の提

の様大を狙ったものにほかならな 厥國による劉古、特定國石油和淮

ン來電ーシカゴのモントゴメリー 【リスポン廿四日同盟】ワシント

同盟」マシントン來職=米國海軍

【リスポン廿四日同盟】ワシント

度で銀路を起し、すでに去る十二

インで開場中の米茂石研密湯ご

> 問題につき衛告するが何等其體右禿員會は國際的に策墜な石油 得て國際石油委員會を組織す、、米英尚國は同國聯會の連邦を

決勝名子諸原なし

又も罷業に最後通牒

艦載機手機編「リスポ

隊可能と吹くン世間

開社四五十社を加へれば度に五百

で達してあるが、第一次指定 型世心及る。我國軍第二業部

この意味ではこの側切的な軍艦工

立してあると信するが、新たに軍

質社も今回の第二大指定質社も戦と差しせまつてゐる。原際質

の高者がある自らそとに残って、はならぬ。 即然においては過数の でなくてはなりない。 かうしたの 「既然主義の日間の指定を促しして、

であるが、第一次指定質散が比較、れ、金融の質散が一般軟化が増設しては差別のあるべきはずがないのでも問数に批行して動態を織立さ

影響が高潮し
う、るの影響
功

増産の熱意に感激

田中總監、西鮮巡視の感想を語る

平安、黄海病鶏初度流観を終へ廿一

がする。とくに下車觸山では日き、何としても頭の下がる思ひ

の衝撃道であるが両首に5番を不宏道、道澤道とも鮮内で育敷

簡配者が陣頭に立つて高級超の

るつもりである。

と總統、ム統帥會見

無限資材および地震質材の

機能力について工実研究してみ 院所側とて表は一般の指

あた感動してるた。

変を生産

照へられたが、官機側の協力

について心祖鑑の陳間を受け 姿能を所属としては、**概**督

日ムツソリーニ統帥と曾見した「蜀軍上ようヒトラー総統、ムツソリー総帥」

新に對し

決和ファシスト

郷欧府

がイタリヤ全國民の唯一の代表

として三國阿盟の盟邦の側にお

敵撃滅の諸方策討議

量をとつてある姿をはつきり

るので、その貼ば却つて興味深一

にさらに一段の窓間を促し、ま

ればならぬ點については遅かに 政権を加へ、また助成をしたけ

つぎに民の方も漕じく面目を

本のクロクの方面における説真

海に成いた田中政務院医に軍中に 百年後四時廿分十成歸幾騎任の

今度の耐災は終始愉快に過ごす

ひ、第一本の真剣に輝く眼の色度といひ、動勢緒神の凝顔とい

の歌館をあるし、次の如く网道の

死網類公を忘れてはならぬ

でである。

産祭に向みたり。

他関係官民多数の出班へを受け直一話】決配牛民の大陸輸送状況変象

向ひ半島切つての無煙炭吞吐港と

田中埠頭局長、藤川署長その一

第三班元山着

内され直ちに〇〇工場前に輸送額

て力強く立ちとらんとする港元山

の逞しい意吹に帰れ北鮮における 施設を査察して大陸の表玄隅とし

一來館によれば東南アジヤ反隔軸館

作成を名配置長官に連備を命じを來さないやう試問概容原則の

南部ドイツの機能を企踊した、甘

絵表されないが、ルーマニヤト

よればピルマ戦級における落下率

し所書子学際問を加へたが、古四

應急の

手當はオゾで 手昇くしよう

目も午前弦ブセレビヤ、ルーマニ

でイタリヤ本土から歐洲各地に對

見。向れ自由

学院城を出設、第三班島居選通

名は廿五日午前十時五十五之一川

時十分線列車で京城へ向うと 方交通高長、西周元山府武等に表 たのう現がを具さに重要し午後二 出来への郷生蔵暦知事、重戦戦地

建設工事を進めてゐる陸揚げ埠頭

し痛烈な砲撃を加へ逐大が駆せし

御玉串を御手に 畏し忠霊に御拜

子島陛下には南國神世臨時大祭第二日の廿五日司神趾に行率あらをられ親しく戦胜の歳の頃に整弦の難と歌い

桐窯席遊ばされた棒を御舎ち申 東公連当,同若宮、空羊坂、李 爬下、蕉陽宫、公運筥、观太宫

に打ち鰈へるのであつた

やがて聖滅は「君が代」の姿

概公各般下には本殿前の側席の

入機と織ちく、参別遺族三、栗に桃は、藤國の皮漿に寄せる(待つ) 新台配の祭神 | 裏五柱をはじめ藤陵の英貌と御殿碑からせられた の日、壁での海蜒ボを迎く、高峰に対線の極端に加入了日まできった面からほどで観びらく、一定を呼ばからを整相、第四、を無駄ボ・歌歌で登録用・自動時でを担心を呼ばらを呼ばられている。これをいい。 電影が大戦に 御歌却のようなよ で聖賞を区尺の間に仰ぎ奉る光・南海御順路に成衆の時の至るま。産相、寧本大災委員長おすび任、在長院薬、私生官相、盟召侍任

京陸湖軍、各官衛、廳校、在京東、武官長以下中華の輸式自動車図

受くも 天皇陛下には陸原御 魔族、嶋田壁海厥相屬近申上げ 繁殖に九階の神輿へ進み 響神、響本大祭委員長の御先響 修政の御後、鈴木宮司御小郷申 て設所に進ませ給ひ、御手水、御

主事を御手にとらせられて勝國 学には望るも民俗長の奉る御 聖事を自武侍征長に傳進

決済を開撃と言うたのである 君が代し変奏神に城國神社が かって際には同一時廿分

社にて『謹寫謹電送

上げて本殿に進ませられ、

の忠繁に御親軍あらせられた。 一層に民一億はその戦域で 西所で駅間、芳烈子古に乗る

御無縁を賜ひつく天機麗しく

質問へ選挙あらせられた 御客翼きのふ嬉威神

學に第一

たわが網盤は引継ぎ有力してる 日パレル前面テグノパー
く足力を分割した端の点を断いて本器電弧点計四日登1 古一端力、テグノバール南北の線に膨 【ビルマ前級〇〇張油碼 | 師地大掃湯を総行、印度園医軍と ル国要標點を取に成功し一一興に第一談陣地を突破せんとし

同地東方突角高地の一角を占領、引續き主陣地に據る敵と激 五十九キロの出版(サイボム西南 た。に牛五サンチ加殿碑、十二サ

テグノパール突破猛攻 | 東京部員廿二百穀一廿一の原文の間は3全に衝突さら北南 | ミザワをも 放棄して計目には ※「オラダン前導大沼・瓊」「鬼にアキヤブを衝かんとした版」し、四月に入ってからガラダン、

日我が有力なる日間軍は

おる親田部隊の協力を得て附近の、これに対し数はベレル、タム道「て四回撃をわび間がと関下せいの」て新たなる相談を現なすに至うとしる。カラダン方面の数層に提出は 月初間後來プラネン方面と策勝し一る東部印度前面漸進攻の一環とし一院際の危機に戦慄するに至ってゐ を設定を受けてある。11 に中部國政党を信頼と共に転決と、参は國境和サイリを自る南部印度、ジャアを奪取戦戦を辿り(と範閣し得るとと、なり、ここ) 世等の企園で全部指揮は淡か にラングレーへ、コックスパザー 部印織散局はやが絶対的主動の下

プチドンおよびカラダン河谷から一 ビルマ絶反攻の基地推進を狙つ

ずる作戦略にあり、他方ダレトメ ルバンを經てコツクスパザーに通 ベレトワから厳り遠くないパンダ

継続が事情を説明した場合に 職が統帥との會見には個外 減、急遽増接された第廿八節また の敵の出際は二月上旬放り徹底まる の所三角點が交叉するアキャプの わが作成の前にまつ第七冊吹が過 第回を企画したものである。 しか シルテヤーテツタゴン道の変配ラーるであらう

控へてモンドウ突破は全く担抗す シュエピエ(キャクト)東北士一 面まで進出し來つた数を三月一日 るに至つたが、一方一月下旬パレ けて徒らに出血を重ね、雨季を一無の所層歌略爆酸に親レードイツ トワを配る九十キロのミョホン前 反覆軸宮東は先週以来特に西歐洲 至ったが、英國新昭界が反隔軸軍

レトベンへと、霊闘を打つて、吹走」る通り西欧州におけるドイツ軍の

米、戦艦廿隻と豪語 域に爆撃を加へ得るといっても まつた、今や米國海豚は一千機 空音響子等大の結果、太平洋域 れたが、そのうちでキングは米園で音響子等大の結果、太平洋域 れたが、そのうちでキングは米園では軽減行戦力につき次の組立ておる におけるわが機助艦隊朝力はま

個人されるには至ってゐない超

してあるから反信動軍が爆撃によ

カルシーム錠

211

なませう……… から多量の英養 から多量の英養 から多量の英養

人間市大定路大仁東一和田卯助時日子第「安産のために」 野子作品

行うツペントロップ、郷新春像 しまとしてグラチア元帥、関係 わが果敢なる猛鹿の如き猛魔を受一

軍管局は甘田日次の通り営明した × × ×

當局の 遺師を反映して 報道して あ 【ベルリン廿四日同盟】反福軸空 | 後方神給線を搬記して上陸作戦の の後方連絡線に痛べる線像を加へ

ベルチザン部隊も過去一ケ年間し 言りに翻動をついけたが、ドイツ は東部職機における長站の組給 痛烈の邀撃 四月回盟】反極難空ートル市に美中機略を加へた 増置を消じてある を選出し事業工業

へることは出來ない、ドイツ軍はをり爆戦によって軍大な打躍を加 軍突盛隊は反帰埔郷弾地に突入一、アドリヤ海岸地區ではドイツ 軸線兵力に過密を與へた 数ケ所の特欠點を騰破して反復

地均し爆撃無効

獨、補給に完璧の措置 重要な個架の修理についても特間で完全に翻道を修理してゐる 一層ではこれらの歴史であるので西欧

会といなれるが、すでにドイツ船 対といなれるが、すでにドイツ船 が、までにドイツ船 は最近の機能によりド 、に京電を命中せしの海魔施設とペット艦一要を選沈、商品一要

イツ軍議野機隊は廿三日夜プリスイツ軍議野機隊は廿三日夜プリス 獨機ブリストル猛爆

に役と何らの支険を來してゐない 部は世界中でも一番鰯道網が稠密 オランダ国団ならびにフランス北 な地域として知られ、他に自動車 西欧洲特にドイツ西部、ペルギー 女産のために



高松宮殿下をはじめ巻り三帝宮一郷跪する三属路が深は仰く御将 を押する遺族および九段の社に ず大地にひれ伏して無限の威動 御口縁の御馳手の御曹羅と 章に押し奉る王章の龍頭、漂き 震震は六日間にわたる※瀬日電 289廿五日午後六時廿分京版剛一 田中總監昨夕歸任 九日京城出藝平安南道、菱澤道 られと考へてゐる次第である 日の初度巡視中であつた田中政

| 版定の 位置に着く、ついで

これを置行に移して行かねばな一 【テユーリヒ廿四日同盟】ニユー 長期化不可避 ク來配U・P特派員は東距載 日本撃破は困難

が廿四日次の通り配つた

れには何感の近着もない、

だ、東京への道震は長く而もことする的歌を増援せしめる無なる。五ケ年間は過くたらうとの意見とうる的歌を増援せしめる無ななる。

行してゐる

際主任態意、第五軍長社事明の如 第八単などの 指揮機まで 全くス

展六十からなる

き、全くあつてなき妖骸となって

猛訓練も水泡

Bの丘陵を占領、さらに攻撃を

の丘阪陣地で日英両軍間と激戦

でこの戦争を戦び扱くべく共和 してある、日本を戦破するため とは日本陸軍を摩丘戦で喉ら般 し、日本の軍等機構も徹底的に 更

太平洋戦域にある作戦指導者を一

セングマイ東方 一廿日以来わが巨砲職またこれに對「自發奏した 砲略極勝の下、必死の抵抗を機能 送り込んだと傳へられるなど着 計四日愛】人的指罪を極度に恐 【ビルマ前線〇〇基地橋本報道母」 重慶軍を矢面

ウエル雲南軍も掌握

慶飛行士を立てようとし、
家立、日本空軍の矢面に極力重

ルは重慶に選征軍のフーコン地・司令官ウインゲートは最近ビルマ

いい。父母なも

といけれる、廿三日の南欧の各地

結核菌に勝つ

オソ本部 都南莊

血液の還元法

建するまで獲過された

米空軍部隊の編隊が國域線へ連 機に喰ひ下られ激烈法室中地は

ン來電ー反覆軸東南アジャ軍空間

【リスポン廿四日同盟】ワシント

度に移って最終的

と 無線を行つ

對日落下傘作戦

下傘部隊の組織に 持を得、直ちに英

國でこの空程落

隊は國境を超えるや否や極戦闘

皮隆や凍赤ひ ふ け ぎ 消我と聞れり

米爆戦機計様が段墜され、ドイルーマニヤ上室のみで少くとも

たが、これは米 順節関の兵力を 戦をらほかな

> った模様で、豪軍常局筋の対明に 至ではルーマニャ画に、政府経験の 四日の空中職についてはまた公報

> > ☆に頑張ら5…… を治して男に負け 察さで荒れた手足

ヘパツトに支那航空士官學校を

同地東方定角まもうこと、一切の物で破って十八日をなる。東中のお歌はインバール北側戦線の均衡を破って十八日をなる。東中のお歌はインバール北側戦線の均衡を破って、北京ないのでは、 れを保備として自己の人的指書を 上官の遊成などに躍起となり、こ

程和米軍兵力の増強に圧棄する

方、重慶軍の米式化、重慶航空

「印度前線長谷川報道班員廿四日翌」コロマ語

インバール北側の崩る

識少させようとする傾向が特に露 精増加し、 在交米空車、 重慶空 すなはち在交空軍兵力は最近層

つたが、これが支刑側要員に本 軍を合してO百機を算するに至

かり

是我一九四

べルカン地域に過する変態でも延 三日夜の英芸館によるマンハイム

大阪帝大の片瀬郷

一日一球後のめば腰眼中 一日一球後のめば腰眼中

おいても大機を関係され、さらに 一般
 一般
 「気地區空機
 に 大本館は含計市一環を推案した記 に對する空間について廿四日意識

79-J

行ふのみでなく、印度でもアラー上において米空間による養成を

東南印度への進撃路開く パレトツ攻略の意義大 ングレーに進い路を開けてなりべ 曜保を意味し、かつトン丘陵地帯 質威するほか前記一道路を通じて アラカン方面の数二ケ師の背後を で南部印度へのわが作戦の自由の で流に打込金れた今次日印里の レトワを撃敗して大きくカラダン

ら外國への成行を禁止する。

により英本國か

でイツ電視等機能はか四日ドイ 電局はは五日つぎの道りに明した でペルリンは五日同盟」ドイツ軍

9性に海化歌がする夢が(量活効用)結結総、助腰 形も豪楽も空氣を自光を れき味らが高行性と、 子びての腰突は腫性血液 線を以て足る。(瞬間) を設定して結核菌に勝つ 十四、 手段に値ならない。 手段に値ならない。 手段に値ならない。 手段に値ならない。 手段に値ならない。 手段に値ならない。 一点 大原泉られが地五十銭。 の場所・加労級前一二十一 大原泉のか地五十銭。 の場所・加労級前一二十一 大原泉のか地五十銭。 の場所・加労級前一二十一 大原泉のか地五十銭。 の場所・加労級前一二十一 大原泉のか地五十銭。 の場所・加労級前一二十一 大原泉のか地五十銭。 の場所・加労級前一二十一 大原泉のか地五十銭。 の場所・加労級前一二十一 大原泉のか地五十銭。

手段に他ならない。 を選元して結核菌に勝つ 群も栄養も空気も日光も

四月廿七日夜

一機を機能した

ンドン來電』英國内務省は廿四日「ストツクホルム廿四日同盟」ロ

英、外國旅行を制限

が知道に置きるれた

米級九十機を撃墜

間地各國防空隊の依然とる強力さ のみで見画軸空電は合計四十七個

されてなり、ドイツおよび

なもつ免疫質の刷了ルカー 輸性血液を生理的殺害語

絕對的主動權確保

が部隊と一層繁密に策勝し得るこ 要節〇〇に對する強威を一層増大 し得るに至ったのである よりラングレーに向び進展中のわ なり、東部印度ベンガル側の

際は甘四日次の如く競裘した

【ペルリン廿四日同盟】總統大本

結核と紙

治学東府部灣 所究研菌トス 攻防戰熾烈 セバストポリ ツ南部及び西南部上空で米機力

に各 終店

難面林ドフミン

至った

彼等の企圖せる。地推進は愚か

ミザワをも放棄して廿日には一巻

に本環パレトワを覆波せられるに

領國境方面の戦局は現にインベー のが経動主導下に置かれた関部的 かくてパレトワ攻略版によって 同盟」概能大本管ではドイツ海軍 作戦に帰し十四日次の消り鼓裘 一、獨海壁快速難談は廿三日夜英 艦隊交戰騎 りから 英田辺閣船一學

歌恵五十七日を寒眩、獨軍院副 をが、劉軍は事敢に獨戦、赤軍 をが、劉軍は事敢に獨戦、赤軍 ・ネツツノ循環堡においては反 際法し、宗念ドイツ環境沿部の際ならびに登職機は示機は七種 とが空職で赤徳四十歳、哨戒 際途順はセパストポリ四万水 セパストボリ地區では赤軍は 外導線域機球はノルウエー地で示事場域機で機を誘躍した ・氣脚・脇胃 に御用心 伏性脚氣 一重の潜

足が倦い 人に菌力

に多く定まつたやうに足が怖い。これは潜伏性関類は腎腸が脱くが屁のよく出る

納が培養のイーストを用ひると活きた関サ養失調の現象であつて熱感にかかり易いが

核結

麒麟し国めて機動性に富んだもの

英質役員は廿四日左の如く決定し で自然として設立された大日本時 【更京館話】 國家有場の人称育成

これによう

學工程度第一、

四半期物動計器

半期物動計畫 路1縣館 輕金屬第一四、原常

會役員決定

大日本育英

西殿佛を確立することになった

の一層の努力が影響されてある

粉密は断覚な針壁が樹てられた筋物的と今回の物動の相談はかなり、

である。從つて十八年度において

生期分だけがきめられた、従來の とするため実体り今回は第一、四

しその撤利機構の一切は新法人に た。小師法人大日本育英曾は際版

半島人定着に新生面

鑛山第二指定で勞務確保良好

整原制も現に経術中の着も後來と

金融は理解式花式伝であるが、目 原料を使用せしめる方針で朝鮮性 現在日祭は前連行灰法、朝鮮現研 なほ解内アルミナ技術については の設備を積極的と瞬用する喧闹 が機能生態に除裕があるので弗化 金閣経の認可申請中である であるので日本職業工場が自下設 アルミを製造せしめるべく目下管 金屬マグネ り、製法の団族人に作る設備が で第一四半期中に整備せしめる 三要マグネ、東洋金融、明鮮理を問ることに頂點を置いてをり 鮮内善汁の均庸を回ると共に関 方針である、原料苦針の確保は ツトを接続で延慢せしめる

びマグネの基本部門と危極、卵化

進してあるが、鮮内戦金勝増

制度機構、見下砂設添上の

を聞くが特と無人が肥工家、前山

対解性型などの液体設断の積

朝用によるアルミナ部の間

などの関係部門との開発に貢助

炭坑の給與改善 援護事業にも補助費

が、この新目標発成にこの感覚者

○院軍 大殿縣印官 吸炎

吸谷をして

おかれた模様である。本年の研光 針に芸き撃士宣岩の理に最新點が に到する計器は昨年とほど間じ方

松尾長逝

を抑待される、**図産アルミナ部門** 物助は一個個質に達成されること

任同時と河原文部省國民教育局長 れる、新役員には理解一名を増兵

して永井久部省取門教育局長が就 郷りなくそのまく新法人に印象が 引機がれると共に既に決定された

響頓此第二大指定によってその影

「風間形話」 廿五日晩表された壁

伝統をと遂行されたが、今年度の もアルミ、マグネともに

既定計器

のため上は海峡のれてあたが、今般、弾びとなった、現局部用の境流はあったが郷と続き、よって領なり項目衛用を続けるといいません。 標は十八年度の戦略を〇朝以上も 見触となどもいよく質り悪び 炭坑資社の銀紫連社指定に件ひ野 上弱るだ大なもので、これが完建 となったので飛網的場面に拍車を (夏京院語)本年度の石炭生産目 昭和十七年においてさへ見七大 用することは驚いの分れるとうろ 待れる であったが、今回軍機衛針指定と が対しく弱るためこれに使用を適 微用炭坑は一般工場と副勇保件

である

アルミナ

金融は四邊石灰法を採用せしいる。

試験中であり、朝鮮朝日輕金融

離期研金融に目下腕石併用法の と公田観検を見る地圧であり頭

蘭酸にあるので、このアルミナーとアルミナ部門との設備能力の

地、湖州及び北交がらピッチの駒ールの採取に努めさせると共に内

共に三國石炭工戦その他のピーハ

派池して工事の維援を促進せしめは経路所の土木建筑関係の技師を

る等、半良戦金属工義は側期治療一かけるものと期待されてある

年度豫僚に一個三千二百五十三十拾即改善に答るべきものとし本

危極の手供に関してはピッチュー

電極十九年度における

設備の建設中で夏頃には標業別

クスの指型的約前に増置を向ると

見下これら新規設備工場の建設に

イブコークス製造の場合に極力タ

部門の増開對策を潜々進めてお

田深裕解城の郷海山戦を進め前者は明徳昭工が国・土壌工場を東地中であり、後書は日本茨集工場工場

米晶石 これどついて

機能の内地へ外来は

が、同時に概局の前途を繋かに考

きを続つて生協官民の双向にかか

数の除件を購入てある。質にアル 性的で朝鮮は今や内地を成ぐ数

敗國粉神と同様、アルミ工業の如

だのは半島の明礬石であり、昭和 先人選が生う機のなき心を生い

触行してある。三機でも多く、一

を削みに廻していなどろの減いを らぬ、今や南方の決略場において

は関連が重はいつも十世以上の極

日でも早くこと血を吐くやうな要

九年今の昭和電工大町工場に呱々

積んで水ない、

南からの船はこの食」トンより合目の一トンといること

室工場一社のみであるか、国下 は現在機欒中のものとしては日

際炭を原料とする関類は様及が代

七割

も 工

一員の力

日本のホーブである電力において

ンドサイドにおいて相構人的管」するものが今日の如き科學院の時

制來を質時早くも特見して散然と

年の暫となるが、日本の國難時代

民が始ふごとくなった、質に記載

深い宿命であると見さなければな

ンを確保するために今日の朝鮮は一力に俟つものが七割であると報告一するのは今日より散へれば既に十

昭和用一階級能夠能理研在開社長

安

西

ΙĒ.

合け数を弱々能めてあるほから無

ひその指揮状況を示さば次の通り

いまその地産原物確立の方耐及

PSの 措置を 時じつく ある

早これらの増産膨素の耐立と

月00名あて、随鮮ばなせしめお 時間用になりつくめる 來た半局人移入も年々曾見 を記録したが、動戦隊は別とし 能はなせしめね の同胞にとうてこの上たを音報 の同胞にとうてこの上たを音報 加せよ」と解明を酸実した 数徒数長アプト・ツ・ラシード

かく減少傾向の喰山めに成功し 18日、 生良人三〇パーセント 人のハバーセント被と對し頭報 着数は昨年同期に比べ風情内地 徒よ、歴史起して個軸の征服に参 金イスラム製徒の熱気を代表して 郷地の地位を占める在日イスラム イプラーヒーム象は廿五日大泉市 あると言、大アジャ主義者として 進撃はわれらイスラム放徒三億一世界の日間を成内

に関へを所である。印度イスラ

る智祉がその指定に入り、不質上 網に於いて七十パーセントを占む 間鎖山監督局管内ではその出版登 九州、山口の茨田を窓下と持つ脳 は郷山部門に空で桝大されたが 勝ずる半点勢絡問題に就いて脳 をととなるわけであるが、これに して何々苦心してあるところでして何々苦心してあるところで 月乃至二年の延長を自出た省が ある。本年初めの腐在では六ケ 解放に立つは今 イ教長イスラム教徒に呼びかく 題にも創助的新生植が別かれる。 定に依つて理に半島豊務移入間が必要であるとともで今回の指が必要であるとともで今回の指

指定の狙びは勢務の確保と生産 政策は粉碎されが既國内に澎湃を 度進攻とにようて発的政府の欺瞞 |東京記話||印度加度軍の達しさ 民族の解放の大道に消じること、民族の解放の西アジャイスラム語 である。この作物とそば即後、 せんとしてゐる、この現實が印即度民衆は澎湃として之に呼励 有力な武力組織を管境し、守だである、今や印度の獨立運動は と解放との完成を約束するものひいては全イスラム数徒の復興

された時はない。 では他のて明瞭である。 今日ほど は他のて明瞭である。 今日ほど 等のイスラム教徒同胞が大果苗

タの諸氏が防日の際わざくく余たことは昨年秋スカルノ、ハツ

者をして役員の疑びなから 英关

てあるがこれもまた無抗に登下 いて近く具稿化すること、なつを計上した。その活用方法につ 援騰事業補助費として六百萬國

「土産物産によるが人 ◆アルジニリマ土産組よりニー 一生産物産によるが人 ◆アルジニリマ土産組よりニー ではつる水質の他とれてのる 機1と地質1と原物とで帯が板 1・1・1・1815 もアメリカ・インディンや四別でネガル

征頼に参加し、イスラムが筋るの電牙からイスラムを解放する

しめてある、独今や解放されんと 和上院放とは順の目的情境のため アジャの諸君一僚と協力するとを イスラム・勝民族の飲放は、意気に する印度イスラム教徒八年萬が西

こそ前つて往版に参加すべきとき のは、イスラムの極米英に割し合 われわれイスラム戦徒同胞は印度 特ち砂たのは撮も伏状と強へたい ム解放の直現を見記げせる希望を である。九十五才の老生がイスラ

役立つであっち、印度イスラム教

支配を最も無限に同様せしめると むる 稲君の 城市は 英國主張の 出皮 ペンガル及び西北印度の処地を占

好イスラム教徒への信題である

でき

職所に将州四道常株主職的な

朝鮮貯蓄銀行で

定款機能の各級を

の武力的、駅消は機々米英を、機・地

郷立と自由と本和を戦る氏れ、

佐勝君は日印軍に呼吸して速かに

で開催的著名は、竹田本の、田田本の、田田本の、田田本の、田田本の、田田本の、明経時深

千庶四、は付金網機械は八千四 千五百九十七萬八千餘間に適し

見のもとにトルコ帝國におけ てアジャの復興なし」との先 態はし、日本の協力なくし

アジヤ朝政に帰げ、全イスラーが、九十五歳の生涯を終始大 ム界に既然たる歌間を持つて ある人である

際公、桂公、大隈侯等の明治 元献、頭山滅翁の諸志士と交 る政治家、宗教家としての最

生涯を大了イプラ 数長は米英の四アジャ侵略 ジャ建設に

○略俶=刑法指定践高は三俶九千 いてある。なほ両行の健康が沿

高に一個 子五百億國と別別 の着場を示す一方、有問題勢在に比し、千九百餘數とそれない は一個一千九百餘萬國で前期未 で比し自除菌の減少を示した

比國で國民勤勞動員 タイの棉花増産

スが現在歐州において強回し

錄戰血

は明りなく安治を 分据是 遊走

できたといるという

課例は響れ 機とある大東眼譜頭の 化する大鬼曲戦争の内(保たった、使って共党の機敢を後にする大鬼曲戦争の内(保たった、使って共党の機敢を ビルマ、皇軍作戦への協力 つこれらの原因で困難化した民生 質目標とするわれわれの努力は先

の芳鴻佛郎特派大便、坪上庭タイ 経田駐ビルマ大団をはじ るが、昨年末から今春 を敗ふ断に向けらるべきである。 以下各地域別にその努力の使相を

南方各國中最も民

人佛印 門門衛原法前別 努力を傾住してある。 あるが、独画としてば所要條件 協定に挑きわが似の協力を求め ぬ態度で臨んであるので見透 野野か家 整理学が、 源の確立を包て

殿な場所は、恐らく如きがきな れが敗なる状態的の打合せに終っ 在郷仙人養師、取削にそれぐの 國民一種力聯盟、大日本婦人留、 女道の間に耐く刻されてあると迷 が映けてはあなかったか人いはの 打合法してあったとしても、 ちの神心には、若十の治験があり れ等地見たちを決する一般の人だ も温度流れる例示を呼いたが、モー ひない▲個下側の御菓子を頂城し 過れたちを前に極いないです 部は、軍司会官などから いろか▲田人扱際替 進以

先 億 個 類 製 田 前 (品製版選用) **予** 粉 時 山 田田田 傷性出 国

うな結婚民の流がい頭心と感切と して状たものと言うとが出来る らの過度だちば、準ゆ いところに手の届くや 機に、英雄に製図のた 解例訓社の臨時大祭を 上京してある金属か

前と京城の極端離此に道で、今はけても思ひ出されるのは、一ケ月 見部隊のことである。あの時の秋 に包まれてあるといふ▲それにつ 密父の城と相当った

打五名の

必 3 ・
年足腰冷な込み・ ・子宮内膜炎・白幣 悪臭、関係、配動、カタル 子は質量炎、出血、腫瘍、 資機が、商場の政権 外殿後、周闡炎、輪 的,例以海久南區東南极人 **堂進善內宮 #***

先づ廢物の 肥料・飼料の確保策 飼料化 ፑ

神化ブルミは現在日間、「川北県

弗化アルミ

の生酸にかかつであ と例の生死がアルミ

日本のホープ電力

は耐性の敗良に俟つものが三階で

この決職地面の一種作業期間を迎 移動すべきであると思ふ

の地間の強とも何すべき、 が酸生死の関西に立つて航空散力

概を切割して已まない次第である

かけた何の館が明るのびやかな耕作風味」

製制を設とし半島を繋げての御交

野人が想完してある。 歴具も当代水田等も内地と
会ど似てをり、帰

は佛印、ピルマ米と異り内地米と始らぬ味と形をもち、現地に住む

朝鮮かアルミに先鞭

ルミを生蔵するための道路として

のである

明日の日。さうしてそのアルミの明日の日ト

一あるのに対し体密数の機能と注意しへるに借って私が今頭の班く挑起

被地肥の鳥の、井戸を開郷せしむ

(九) 緑肥栽培の普及

ると

300

東を開始すれば水鳥石は光分に開充と後者の新規設開で秋頃操

第一項から移吐したので削者の

3) 全產均戰決屬金輕

何かといくはアルミ

うに積んでくるのは 水脈の臓器を確心や

丁編の生態能率の増進といる地下

原側的大勝利をもつて米匹を財滅

身に感じその振荡な川びに呼順し

て競技銀行の突襲作業に全従業員

してある。米住は主たして南地セレベスに長中されてあるが、米風、された熊原連動的に加速して南地セレベスは全計時的対象に派域へ入れた外のでとせいべス関語は、我は実践を襲入す、1年度から原用してある。

たのを機質に能取、ビルマ、タイ、

フィーツビン等の戦争につき最

数米、英本

わが散高極威者が相次いで関閉し

セレベスの食糧増産 緊急の

村田駐比大仮など南方各地にある

聞へて來る、我々はこの拍車を全 求は桶の盤を引くやうに削続から

あるさいな結論、最後では日本が

等における終記の断利者は日本で ヴムは常に朝鮮の原物から生み出 総職を示すものであって大鬼距配 の繋をあげた日本般初のアルミニ

生れて來ることを、公人は徹底的に

展にも右頭左腕はあったが、はか ある。例來十年國の歩きと迂除助

く跳起してあるので、どうかこのは一般の火の玉となって搬進すべ

展れすべきである。アルミニウム

ってある既任の東大であることを

なる影響粉神がものをいかといふ 言機筋度の比較工業において特別 代それでなくてもなほ前級格兵の されてある、之は戦場の勝敗な実

の原料のボーキサイ

明日の日トンを謝却することも亦 道をはればなおが、うちそ 合目の一トンは一に川を押っても へてみるとアルミの生物における

その日暮しでは喧嚣の淵と流れ

他の間原材料で一幅でも多くのア

関力というラアルミと永留石での に回業的社の裏門家を納難して研

トである。この事實

(可包物便等理三第

自給肥増産運動を展開

常所収積及び作付反別より各版家 の自然間深量満目標を完め暗落を

針に基言政府の決減を必要とする一 際約の地域をは脚村再総成の大方
男子は勿職婦人島前等を敵動員し 即するを要するか以て此の際自給一 自給肥料増展のため取る期間毎日 一定時間動勢せしむる外動が適間 地南運動を向すこと (二) 農村勤勞總動員

期を戻することなく夫々自給肥料

場所の時任を口はしむること

探험助成

で之を材能し財動物を作る等動物である。一で之を材能し財動物を作る等動物を開発しまるまで

ての野政刈取を常時行はしむるとしい和呂蓋院を利用せしむること

には組合を組織せしの信局と協関

(水) 地形遊戯を浴がなりしむる

合はしなること

一、 農家に於ける飼料 本方総と 解説の顕然師の所謝 ・ 「」 解釈自義自己語言の裏弦 ・ 「」 解釈自義自己語言の裏弦 ・ 「主語策」となり ・ 「注語策」となり ・ 「主語策」となり ・ 「主意策 ・ 「主語策」となり ・ 「主語策 ・ 「主語策」となり ・ 「主意意なり ・ 「をなり ・

が、こ(2)粉末側がの思想など利用 時 と 電響数、風料数、石灰量、低的中 の粉末側がの思想など利用 時

芸術側料でる弦草、雅郷のの料刷

想元する鳥柳紫加工統領機関をる

(口) 自给肥料增加

3 3

和呂地庫大及曾木灰の東泉田東水路池沿等の泥土利用

肥にのみに依存する能はざる情勢 の増加最も必要なるが単位とを金 中の影響がに負荷せられたる機 法を存在他の完全の爲くは肥料

と手を注が言言からず、然れ

式之が地域に触から言る努力を喧

に狂るを以て依然自給肥料の増製一助を似すは勿論、概力機関の指起

先つ風民の精神派動を形別するた の指揮動機関及び機器関係の活 政良場面の一途に滅消せしむべく

により関係があとして自動的物大

三、自給肥料

(三) 自給肥料増産

地方の質問と帰じ各主型作物別反 (不) 部落別自給肥料場所及代献 實任制雷施

(一)自給肥料大増産、本助及は苦っては心臓はのなど。 運動 おず、は難は変ななったるの物質を観視的なな知り自動を持つ、まました。

化を関ること

(ロ) 左前に付黄筋指導を行ぶと(1) 労積増明、寒成増明、薬料・増肥の増設 無尿部、簡易『サイロー』の構

機類、蒸物、膨和類及び頂 (ロ) 園根報用家を食、栗原ご神(娘も)と終端の四珠、陶珠華元を が明すること 改良を普及原物せしむること (人)樹薇加工の副政物を践村に

万して際民に動する指揮映画の<u>廻</u> りて変がすること、何地主に行り 針を開門し各指導関係作用を統動 ても河間の場合の方法を向すると (イ)本形は自治肥熱物面の大方 强化

ると共に必然物質特別等の方法を

助成の卵化を閉ること 網数が崩すること

潮程類の燃料又は温度者とするこ

とをし約せしの生産類の三分の一 し新地で過元せしむること、特に

選挙は力めてごを承許の駒利とな

に金配を特配し速期子の資格引

事が保集でしめ天然株肥として利

農作物の福科類、発演物の配保

(三)庭作物整理を取り発表(ホ)

(示) 山間部に近ては野草、西芽

上げを吹げること

四、肥料

、肥料に對 する助成

問題別の海川保政(く)数沙、陸

の (チ) 大利力地が休時間利

の利(上)埋葬なり石炭の

(日、探報の対象のためが人、

有功者の姿影響の自治肥料増高度、 (五)終肥栽培の普及 (八)本には即三面を開いまする (ロ)自給肥料増高施設に対する る風光の飼料化膚芥の肥料化を徹

(イ)地門電源確保の終款料とし (六) 並行施設 既せしむる時都昌民の協力強動を 関すること 體的方策 (七)厩堆肥増産の具

物数無效的への解検、温安残日の て謝和液物の感を除く目的を以て しいること の風先及び部落内潤積を必行せし 宣師に関じ消費なる家畜を飼育せ ば肥料なし』を有得せしめ地方の 共に無路輪を活用せしむること め野草及び豚水益地肥又は剛烈の一 (人) 如本門の一手が一断、無明 白意愛と家なれ

共に飼料、敷ワラ、地肥原料とし、当刈頭勝利間を延長すると 資献を獲得せしむること からしむること 具要開を助成すること (ハ)特と加呂近郊の藤菜栽培者 しむる場の連環、中域設備及び落 (ロ)都昌海尿の利用を容易なら

ら 算板の対射を関すると 機成及び家畜機成の利用と遊戲な 程度を厳地門の原料とせしむると しむると共に肥神を散帯せしめ人 (イ) 陽家側所及び畜産を改良せ (上) 開刻 サイロー1の普及に

は新国はの三朝が作者を規定とす。 中鮮・主としてベッチ・ペッテー り、地方別に経球計場を耐立をし めどが普及後氏を切すること 理北鮮 まとしてペッチ 飼料增産確保策

(ハ)緑肥の種類を左の目標によ れた変と

国、部湾に対し試験を人類解析域 質量を一道と付三ケ所領を付せら

に対しば解析人は解解型も助一二、飼料の統制配給を二、機能が創集解を計数等る道・むること

行せしめ、これが脳保を必拘せし 西方絵を夫々地方の監修と関じ世 肥料のIII利用等各種個料自給的 用に依る飼料作物製造(リ)有機 要する家畜に対する しいること 護摩飼料は疾済の和別毎に合理的 (・) 駅舎飼料の均乗供給

竹草、蓝色颜、烟墨颜、石灰瓣 三、飼料對策上特に採 な場も必要とするなりて明解が置 株式の社の之が製造能力を増充せ 即無常的配合飼料として供給する (1) 目給加料用高速動の展開 るべき施策 **尚名植牧坳、高殿家、**和馬、取用 政格規制背流等に対しては其の所 いるること かを計上し 計場的に どが 施保を 聞

開し盟国の登録を見すと共に特に 既然行金と の収納を順化すること (・) 飼料の不正移動脈に不正品 開り之が配給機構を除酬すること (6) 飼料行政機械の搬送船化を (で) 関係は関係のでは、これに対象を対象の対象 動物の親地方条成せらるること (5) 飼料製策施設につき福祉的

子さへなければ内地の水田を見るやうな関係を起す「異異、水牛に の個保(ロ)個点形数の地震(ハ) 要量を推算して一動料用難製料一等むること は関係などが、大型電気半点的までは、大型電気とが、大型電気半点的までは、 て明期世の経済に増取であり、一

福信年間廿五萬曜の供給を解保せ 先刑を**は**りと説け 整眼心 佛印經療協定による必要物資の趣の維持に対めてをり本年を日 一般の特及に取すること

個を以て之が顕映像を明価しばく 立に続り飼料用としての建設必然 來米製年度以降は貧糧機能計進版 (3) 縁が用鉄を残の供給端保 行型動展別と伴び新飼料資源開発

てビルマにかける政治は悉く第一 民族生産力の影解進行が計算さ としてその政治の ざるを得ず、 一続である、従つ でし、石鹸 8 た、変型の形状の端に く好民の挑戦を指んた氣味もあつ 保持にの処理に添ねて、

けたとうつであっちばればならぬ。 会談が行名を行り、新一葉の一好評絶談の一 そ、常郷の人たちにも悲らぬ赤城 を披掘することを、お互にけふか てるような温かさ、吹しさがみ かつたのである▲今となっては過 寄せる陸順のことも見られなかつ 賣 發 新 中海下痢!

吸用す必胃或て膜に獨

□地震関境の米英重に

米英用『有色外人部隊』

■ 書記とはパドリオ歌のイタ 都達された主蔵の外人歌院二 ○大歌とは歌師の景景によってリイスを再るのは米だして西面の変 歌のほかにキロツコ・アルジエ 本土等へ振りの一部は関歌前後とは大きつるのは米だして西の窓 歌のほかにキロツコ・アルジエ 本土等へ振りの一部は関歌前後とは大きつるのは米だして西の窓 歌のほかにキロツコ・アルジエ 本土等へ振りの一部は関歌前といれてあるのは米だして西の窓 かったかしています。 学は食みべきである、頭にイタ も自八十萬の印度人を既に密婆 ・ 中は食みべきである、頭にイタ も自八十萬の印度人を既に密婆

三分の二を占め、北細に降下し

を複数にしても自然に共き融ゆるもの

現在技どしい消展を見せてある一本に政治の方向を向けてある

機が癒かに大であるがビルマ欧行 でころでは他地域に比し國民の負 製造化よりも幾分眼前の眼睛にあるが、第一級政治の特色は昆虫の

KO-

はこのことをしから承知で大児匪

[期の諸決質繁を耐険決定したが 生く、特に勝帆は損金増加と 放置の一新分野を開き注目を 位一億二十四萬二十四萬七十餘 十一時四十餘 商起縣會 加索で一方 の微物を示した 有質證券粉獎高

してある

丹平

01

おいては昨年度の一倍半を自爆駆除件にも拘らず今米作年度に

に大増産計塔を立案旅行せんと

行五日午前十時から景城本店名 今初の株主配営は 金属分ならび 刊定判株主総督を 開鮮開発銀行で 対別も大場に降作して食糧の自対別のほど担合れてあたりアメリカのほど担合れてあた △フィリピン
最地は ある。又か たなる政府自身の政治力に ンイリビン政府営局は國民の動

はその人格と耐見の常然表する。ラウレル大統の構成路線 ころであるとくもに向大が倒が

東山・野出山 Ú m

【字治山田電話】神宮云半郷宮娘 | 御儀に始まりあ郷大宮号以下神宮

即縛ぎ子後一時から昼受大師宮で式、梁始式を葬仕し御祭儀を終へ

の日語祭、多種別温の柳条限も

そしてその陸の十一時の対単で

しく祝原を察し、ついで、草刈始 の予新官御敷地の祭場に過暑、雅 れ細正殿の大側前と連み八度碑の一

きのふ嚴かに執行



朝、既然解國の社師と進ませ給ふ が、光気に浴する者の。濃燥器が 照倒を移み寄るときめく心を抑へ一鳥 取、山口、宮崎、鹿児鼠の 第 【東京南語】仰き見る森窓に大内」ながら御川門を御待申上げてゐた一十職」わざいて第八郎、第五、第 級が目でレみわたる廿五日の き得のられ強族の際は「軍機から この朝班域は唯一つないまでに掃 ある、やがて午前十時三十分帰井 坂下門にかけて頻繁と列になって

田中總監最終日程へ「出頭とて「富智度」 画報方置工業で 際院は第六日、廿五日朝八時海州の宿舎を出後、

"勞働は修錬だ"

と歴が經常に戦い喧問を放ったの

婚を行く婦人の服装が地味です

でと(成北海洋海岸の第一三

徴用學徒に温い激勵 セメント、網洲〇〇二場を巡回し る間以工類を動う用し、説が 一 明の地域はかくうてわれらの 君だちの間は一個人のものでは ない記画の大事な情だ。一言が

行職祭を終った

待つ勤勞奉仕

扶餘神宮事務

四時廿分同國後別里で六日間の個 概念祭前長らの見発りをうけた

路上成路へ、唯井知道、

の正となって像者の隘路と聞ひな

旅は土場を流脱中でと限じ入つ 優秀な自既率をおけてある。

被治者の身になって、他人時代は 自分化化だから他人となり、宋 とつぎの好く願った

本野校長以下際はこって苦めであった。

名に腐ひの質素を與へてセメント

ź

ジ素仕する海州は南町女子院百歳

腕に従ってある現場へ立むり

動の報画版が終汗とともに劇り即動を検が一年生元十名もり

大なる生産城郷を形指る関係火薬」。程には病気のため帰境を休んだ。

即然に脚立着してあるのを聞いて

過能と向く途中間関連が上級

神宮式年遷宮鎭地祭

数一次いで指州戦を中心にして雄

後、延月国南大池部落を前間、こ は続に終へ、開展明礼の木造婚祭 の赤灰はるく動型を仕で地均工基 とから生で元年、山本学人 表の昭和十四年六月御起工で製手 【扶倫の師】扶徐神宮の御治察院 所準備は全し

複をおけてある機関部落である。 立て冒五十九町歩の脚地を完成しの部落は昭和士一年に開大池を埋 を開かる 製成その他確認機器の情報に良り 製成その他確認機器の情報に良り 趣々五月十五日から動物器仕が始れば、今年も 肺宮御道は移所及で扶除足動 まることとなったので、地元扶除 されてより御水酸の

威涙にむせぶ遺族 刻を腕に描きながら待つ、正子少 軍大臣、ついいて帰田海軍大臣が 三難とそれぞれ哲師して繁光の一 遺族席の前を流かい回差しで駐手 に挨拶(下)瞬限の英雄に し即世界と威能を正し星派発播歴 思召から御料車を除行させられつ 上乙組仁慈を無いさせ給ふけ難い 型くも 壁下には伏し舞む 造族の 今で闘闘を吹尺の間に「理す一瞬 たゞ既会は底域の涙で流れてゐる である。理論する過震の限点をメ

東きて参加した中部が振角が戦を旅船の最後に強む、見、昭さ、成じたもの、それは、子を、天、東京に、7田中時最最後)・在東五日決戦のでなかに執り行はれた地関陣批奪の発戦に同院づ

神と気まりまず精陽神能陽岸大祭

ここ物酸一途に火の玉となって著 の戦闘こめて解國の忠遠に選集。

生滅魔の忠烈西古に輝いて駆倒の

を かして 全面 民は一門と 服飾を図

い宗戦る民一億の必勝に然ゆる聖

肺を数上して、音田氏を思動の 深師官條師を発仕、大和師官説

ないと傾回に思ひまし

前のは解を飛行する物定である

毛深

れ、まつろは山隈原米英に居後

だ天の灰製よ、 照製あ

なる約りに納めた精戦の一念、目

残んの極花散りしく九弦の杜に七一に御製建あらせられた。この時刻

めどは頻能もかくめらればならぬくといふ路を聴かう を、兄を御園に掲げた与なればころ。そり一階の反名に関打されつく暗郷後に戚ふ生活のあ り方をおっと称へて唇を嚙み街に、電車に、 半島遺族が見た戦ふ帝都の息吹き 人の心に強族達の口をついて出る言葉、勝つた

法訓練の徹底が美しい位軽然と見えない。そして変調消傷の遺

見てすぐ剃りました。別群はも もんべのためのもんべといった一女性の方なども皆もんべですが一

▲現務信にしてもてきばきと類切り で解消する(京城小野重一=五

されざうな混雑の中で降る 荷物で赤ん坊工供を連れた あると迎を開けてやる。大宗な

子が輸送後をもんべに手状を被町利岸で襲撃を十五、六の男の

これと比べたら朝鮮の

◇…南方城殿の男士でま、

殿の男士さま、筆句が幾つお出来ました

れるのでになく買心から聞って

機まんで食べてあられるとか、 るとでせる、草の根、木の芽を

心に感じてゐるといつた風に私

香りと 色を通して故國の 群をて渡りませう。とうが稍一杯に、せん、花の穀を練の神花にこめ

燃料の獲得 ボルネす目指し雄々しく船出

「の家族を課を挟くて目標する」「降」たが、より然びない歌節が振い地域を決して目標する」「四人が、よりははいいに対している。」「四人が、より然びない。」「四人が、これでは、「一人のない」「一人のない。 砂とのほど展開を聞いま行動物と いれてならころ行名 □ は関係の全国のでは、大学のでは、 國防献金 【出出】▲日 本社寄託献金

さらと明常等の証券が下度削組合 関策を続じて施防日本の試象を示

業の基徴を聴を挟いて傍柳

下のボケネない。イックベベン油 では古書の確認において、様々な

の形で環境で地震と さら、まだ持つて外 3

◎四月新歌期開始

・羅則要大銭 (一年中卒業)

軍大報酬! 工場や家庭を守る様式

開設

地 忠清帝是大田府本町 丁月參拾五番地

取扱業務 二般銀行業務並三國、開 設 日 昭和十九年五月一日 **加事務** 一般銀行業務並ニ國

関係軍人に無き機構の賦を無し、役職の組み 整備学院の名を層は心る明紀が近への認防戦を確つ率仕数据の手を第しのべねはならない 金が相関間に選

とであらうか、さぎに京成機関神社 が、これに引きが、これに引き のだ、照照が門と行うたまく生場特 別志派是一院級時間第七の政治取材の の製仕、かじの様切こそが姿勢される

の対党。他頭。動画の一段が行けれた終係員のほ 整理間に統後は出在傾腹割土の衝撃域と、 和を寄せて死た、指導の地位に立つ者 家がとはるのである難じて人ごとではない。

て関うを状はねばなられ間感がある、生態も 合年から衛兵師の資施に収て数多等の、兵の る解析の称しかったこと、こへに簡多反省し

冬常 第一站出 世接の回郷にともに積かればならぬ一

今と、途中の機関が思ばれて不安 とをつれて出掛けた。しかし國 一面づつ質ひ船に親った、射の 出来るといっても、厚きん

パンを一等子供に分けてやり、中で次男が腹をすかしてゐるの中で次男が腹をすかしてゐるの 内地は初めていある。それも遠

帰さんとその時また隣尾関校の六 生であった民族のすぐ下の男の た場の曲 の町の方へ食物を含むという。では軽脳真く物を掛けれなかった。「気がとは親をうれて、下側では軽脳真く物を掛けれなかった」「気候さまです」と言うと、、 置くして民味は巻と子供をつれー 度が一杯であつた

が尼公

朝鮮服会の曲場さんを見て れた内地人の中年のおかみ合んが 代車の中で数切に坐席をあけてく そして 求を海 はに 残った、 すると

るなた方は何度空で同しに行く

七级人物大

一日間、原像さんは一弦向に

自然かやうにならな

相違らず統制のない解析がで、

我が出入 欠情を予、

そして朝、夜が明じて間もなく

はじめて見た内地の風物が激しい も食べなかつた、だが何後さんは

戦争の最中 だといるの

って欧麻をする、路校宝でが立時

されてしまったのだった、

左右になる、 世一になる

行くと、業格してある群集はサツ が聞きに先锋されて当者を担へて や下胸のはは人で目在でるしいは

機関正しく、数度も確できる。

通のおかならんですらうのやうに

これだから日本は概律に無いのだ

の婦人は、三野事に乗ってある書

れに比べて今年で半島の女は何」ことで、東門を教授し、別等られて、一切できた動意がの日本は簡単に同い。こった、東門を教授し、別等られて、一切できた

こんは丁等と対せられて関語

関語さなは脚を打たれた、内地

要は、眞心の奉仕

貧いがつて仕方がない、しか 自分は小さいベンー質で登録を した、タ方下願へ致いたが、益しでも心選ば、そのは際に数はつて でものでは、このは際に数はつて てゐたら、 て願って言た、どうやら言語して一と言いた、そこで何度さんが、軍 また汽車に掘り、大阪で駆換へた しかしまた子供が概念すかしたの

に原際から芸術を受取りに然るや (年北京川州教院館) の遺族の許

らない、それでどういふ魔性を成一

ので、関係情報る、そこで確も 同だが、 背の 音楽的校を出て ある

らず、まごくしてるよ

で、食物を得るために独野で下車

を な面持で原をされてい

ちんなっておい、そこではし

文岩丘杉の父親の同僚された登

「脱穀物地の外に属く交換兵長」日ー信度その日は日曜日で、阿里一る者もない

学局が生んだ二階級特徴の明古の途俗を迎へ かは参考の数は増々たるものでおったこ

との開始関係所を弾して一

とのは、昨年の十一月二十一一た、独もついて行ってやらうとす

見倣はう内地の軍援 うですか」と言って、問ちあがり するとそのおかみさんにいるくさ 一路を受取りに行くのだ、と話した はこれこれで、OCの原際まで設 さんの細をひいて、いった 汽車の窓から見ると、田町には百 認められた、傷をよりの回帰 って脳々と相こぎをしてある。然が 姓のおかみさんが白い手拭をかぶ

て、かしろ統治器々たる特徴に陥 が一杯で、別にひもじいともは さんの限には、内地の郷々に巡査 なかつたのである、さらいふ何俊 まって関係してくれた、淡恋も歌

の姿が一人も見信らぬといふこと 原院に出張して見ると、宿告も 質定さんは内地の、その統制も

目の當らに見て、感験 も借しく以ない。いや日本園民

得たものである

半島の民度 なぎだん

しまる、喧嚣さんが腕に抱いてき 野は、妙な所でなき質められて 次の、息子の血を洗させて如質に これで早人になれたといふ

ひを少しでも担かせたら問題であ る、私がかいた三人の長足のとこ 何のために死んだのか」というな ろでは、安在原境理を対てる計畫

と行動に対づる。同けなくて時が 住 るが半島の居住こんないも

一さへも無かつた(四月廿四日景城

樂良

の中に押込法れて、もみぐちゃに に一或けっ方が扱かったから知 あつたか、情報を行って呼いたの 智と無統則な情災をつて、「場で 書を抱へた風きと近を子 んは政情を抱へたまく戦事の難沓 だが、第一場で見たものは何で 郷力が見なるのかいらなが、と さんが内地へ激音を取りに行つ んでそくめるやった手を取っ 国、同は身を以つてそれに始らな は聴者的が耐てく取行するのか、 た「恩子は壁下のお役に立つた」 ればなられ、されないと、「個 さければならぬ、殊に道、郡、 ものれ早々に案をたて人質行に移 族に耐してはどうすべきが、 たればなられ、それの日本 物道の長につどかんの帆撃に燃

大芸化等である、消滅に記述 ればなられ、これは火器を吸する 情を知らして聞や話を指述しなけ で、迎び、**間**びが完全 するがし方というものは、解析的 防殺時間の祭みる国人治療に対 それな思るとき、先前者をる一 長韶人、何大、早 近き将來に四日の名 けつくめる、もうとも

えるいが、理に関係機能をう 多りで開 早大學艺 ので、四層し 危険の

のの観察の観察のの た同組合では協力の 727 解を無めてある。 語とといい しい返答があった れすると

累計,顾防歉途自十九萬七十九 飛行機厭納基金 4

開設可仕候間精々御利用被 今般左記の通り弊大田支店 下度此段御案內申上候





行く、午後一時間度な隙服を包む 御料車の物差が身近く迫つて死る 大氣を搖つて御出門を告す劇略の 関引が彼方の若縁の財団を通って えて死た、原々と玉砂利を見る

の順を治りなずら木殿へと向って一何なる光祭、帝肉を昼間に帰げ第一

いまぞ拜

つを残のうへに前回の脚と河ら らすのであつた み上でる無上の海像と唯々類を高 す預響で、勿應な言と濃燥とこ かくて、陸下沿海幸ののち親任 英观心應 今まな至原の龍間を使尺に辞 各職場に必勝の熱禱 へん

く頭を腫れる地で版士の胸底には

響す、無限の感謝に測さる歌く歌

地面版士は悠然機を正し、はるか

ずは北京の次報問題を同く紹うた

に忠感とこしへに頼る傾頭の杜を

京畿道献穀

水田地鎭祭

展開が地帯、阿江宮第巻三ほか米

から瀬戸知事、

國

小切手盗難公告 化柳病專門 4

に於いて版かと割り行うた 第2年餘名が参列、同邑内側版作

大外を以って野りめぐらした献

茶り(初一七十七郎)の(初一七十七郎)の

三 古**神**

の「大五階の) 一(の「大五階の) 一(の「大五間の) 一(の「大五回り 一(の「大五回り 一(の「一) 一(の「一)

器は消費と消められ、

|古世の礼だ。お人、同なる歌説、「鬼くも、天皇陸下には『殿の英雄・地する王弟のベルトの歌りはこの。」と記れれ地で不参目の歌地に聞た。『春歌を賜り、木殿へと感覚を振め」第一日の廿五日年後一時十五分。 ここ 勃哉一条に次の手でなって歌』 に見えぬとも韓國の英郷としつか 東京が自の三人的は他なてある 原であて無料がよい、朝鮮の電 原であて無料がよい、朝鮮の電

勝つ爲の勢力不足が叫ばれてゐ一

つの風層になつてゐますが、こことが京城や朝鮮主要和市の一

選も出來るだけの節約をして何の何趣質に對して廢除して自分

成識習會 回三級滑空 致士から 闘し上し

> 期間延長 増産に嬉しい

华島勞務者

X.

いまず(忠南大田加藤初子) 用の地では文字語り

出があってよいと考へました

あない、 されいなものですが貧一 胸勢 現貨の信は聞一つ落ちて い交通道德 防空壕にうかゞふ緊張ぶり

★配新 食堂以外に行別一つあり 「京原電車・トルナル」 ったかに縛く変を建た時次が、 ★川にた 既ですが岩 が、日本均一般なの はれる 泉谷牌くしか。 ました。 が、日本均一般なの はれる 泉谷牌くしか。 ました。 が、日本均一般なの が、日本均一般なの が、日本均一般なの が、日本均一般なの が、日本均一般なの が、日本均一般なの が、日本均一般なの でその外の住在な様

思す、朝鮮へ関 この正すが 場付こそ 土地収良

郷の野長に卑鄙なないと、一同甲合一出で再な難しく編集で源水洗酵源

の日を待つばかりとなったが、 見事に言語し、任務を移へて暗

無**法律相談** 學為國際委員等 但以新國委員等 但以新國委員等

(神経氏) 株式 (神経氏) 株式 (神経氏) 株式 (神経氏) 株式 (神経氏) (神経) (神経氏) (神経氏) (神経氏)

神器(安兰) 皮菌、淡原 性病科 医学博士 金林皇煥

してこの芸人職場を扱いては削減

京城辯護士會

の傾断地震に後間するととなった

中中

菓子工業組合

「東京の人は一門に親切です、私 版を一、二級

学である場

開催化と伴って内谷の選正を贈ら

行場で第一 2 うと辿では各時間が低の出る組合

組合の放北第十二架組合のを設立

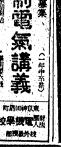
したが近く総代型を開催して役員

性的を行ってくいが中できる

一個計 本間エニト阿宮が民の報館部中 「役内三段下」とあるは 「10万架王段下」の思りにつき面 可致します

新制電氣講義







明があつて後、映叢『軍用大の問があつて後、映叢『軍用大の説 屋倉町でさんは夫信治郎氏の関ル 合により中止した。なほぼ用大訓練の憲漢は部 一的であり競明品の前途は猛々期待 金屬代用品展の表彰式 國民能體についで審査を告、要

最後見憶不二國産工學株式會社の 『枕木や像道沿線で赤くなつて

| 「なあんだ。 最らんなら | 衛に

防火用凝塊式砂散彈的

●語本局②一里で・八天七・八天八・八天九京城府中區賞金町ニノー九九

製造廳實施權讓渡(要至急)

年後一時十五分を期し、一個國民の職時大祭の國民行乗として廿五日

の忠珠神報まる館図細社憲李一前に特設された祭殿の前で遙洋式

要する統令で差別諸原は副國の要する統令で差別諸原は国際が、対対の政策が関係が、対対の政策が対対の政策が、対対の政策が、対対の政策が対対の政策が対対の政策が対対の政策が対対の政策が対対の政策が対対の政策が対対

を勝じ替って同一時十七分、式

特殊性と重責を解明

廿五日。軍用犬の夕。で多彩な催し

淨域に捧ぐ

お父さまが『間世田君に赤い紙の

0年 上田 晴美

のおぢさん

の家へ無いでの会した。本町四丁私は号に促びを解答れて、弱線

その方は、私と一緒に、歩きたがら、いっぱいになって『さらからは一二様に近った。 ミライマ紀文がようえのではない。 かがもってある。 あば様なず駒が、が一巻うまい、此の前差主大・歩と思って残る様になったのではない。 かがもってので、私は様なず駒が、が一巻うまい、此の前差主大・歩と思ってなる。 別報ら上述、「からしゃったも」と語のでもなか。 から見るたちし 一様に近った。 はつするはかつけん いっぱい はいしょうしゅう

がひないと思ふ、その時は又

あがって漸く思ひついた。

林園で。どうも聞い、

電話口に出ると

そんなことを晒しあってゐるうととどがついた。一尺もあらうかと

朝貯朝爾殖朝群

明鮮無盡會世群山支店明 銀銀行群山支店明 銀銀行群山支店明 銀行群山支店

と、拡大派も歩きながらいった

しく所在の位置で遙輝を行つた

際員一同は可感い際問人形の作成 **『丘厥さん宿離う』と練聞大和撫** 贈る慰問人形 年隊の軍援

もに廿五日府軍人拯破曹を通じて を続いであたが、廿五億が立派に

で、質は弟と外食をすることでし

第一級勇士に發送した

るため、廿九日午後一時から月 開き、それより山原の岩神洞に割 では、再記率公の決意を一般々国め 女の网を長を護師と修獲制語會を

大泳は戸惑ひしながら、

鍪

を事(ランチ、井崎) 「最高組織や「公園園」、「**衛星・福日**

府

参

精

百

出七一億

一、待遇

日本鋼管工場

一、其他一卷祖母,管玉珍溪、附魏胡虎、昭和一、其他一卷祖母,管玉珍溪、附魏胡虎、昭和

京城職業紹介所

屬府營 公會堂食堂

分を御求め願ひます

願ひます

でて一同湾景楽にに修行を派す

と一層関といる時から、競集を収 と協力によって制信額を突破する一般が運動は廿五萬盛園班員の物脈

五月一日から度重像で及び計像器

計量器を統制

74山松清器。

规拟的中区本町二丁目六三 ●最本版の1251番・振想京城29263番

歌歌を終由して京畿道知為に申込一

用も購入申込機三道を作成し后間

一川野では廿四日年前十一時から

開城府では廿三日午後一時から府

聯絡員の常會 **仁川府聯推進隊**

を花げて

京城府中盛長谷川町二一は後週す 大橋 化 夢 工 藥 所 医医胃浸含 第一次四五卷 大橋 化 夢 工 藥 所 医医胃浸含 第一次四五卷 大橋 100 元 100 1月1日より開始致しましたから 御利い風府公舎堂食堂の 經營を左記に依り はや、新療法 愛知縣優廉市西八町九十二、森下みや子

8書又は 身分證明書等を御示しの上食。

成與職業紹介所 遇 差異アルモ相當優遇ス經驗、年齡、技能程度ニ依







本醫藥研究所

わさか最悪性 所

咸興職業紹介

· 社任月日 云

一、銓衡日及場所 遊廳※紹介所 中部元階でも 発育は、直接出題のこと と紙員の直接の上採否決

一、銓衡旅費一、提出書類 服器出頭のため異したる旅製及信泊競を支給 **参加作所宛(愈衡阶日迄)**

譽の家奉仕

としました。その歌人さんは大ク・ラテルはいくのか歌ってあると、「つと顧某の方が多々な能形を含れ、との記述に与えばなうでく有合。ですることはのでなりままにては大物。となった。単位国ってレミラマと、「つと職某の方が多々な能形を含れていません。」のと職業の方が多々な能形を含れていた。

いたいけな奉仕に喜び

童心がものした珠玉の數々

三年一組三年一組

海への

李無影作 鄭支雄(繪)

シ安一さうと思うてね。

としたところだった。

こね。同じ街に住んであて、 不思 一人生の裏道ばかりを通ってある

良

で後さんの家へ着いた、門を入

が出てある『さようなら』みんな

日本窒素本宮工場工作、化聚素協築開作員登刊

八求人者《扇與南邑》 茅集特技能與見為三工募集

387

禮戰

储蓄助